



激動を生き抜き、次の100年へ
～酪農で日本の食と地域を支える～

ITO DAIRY





鶴居村



the most beautiful
villages in Japan

「日本で最も美しい村」連合

<http://www.utsukushii-mura.jp/>



会社紹介 株式会社 伊藤デイリー

経営規模（借入地含む）

採草地	360ha
飼料用トウモロコシ	85ha
施設面積	5ha
計	450ha

飼養頭数

成牛	650頭
育成牛	450頭
計	1,100頭

構成員

役員 3 名 正社員 16 名 パート 2 名 実習生 8 人







株式会社 伊藤デューリー



①フリーストール牛舎

牛をつなぐずに、自由に歩き回れるスペースがある牛舎。パイプが設置され一頭ずつに仕切られていますが、自由に出入り、休息ができます。

②フリーバーン牛舎

牛をつなぐずに、自由に歩き回れるスペースがある牛舎。フリーストール牛舎との違いは、一頭ずつに休息できるストールは無い点です。放し飼いとなるため、好きな場所で休息できます。

③搾乳舎

子牛を産んで、乳が出る状態の搾乳牛がいる牛舎。18頭パラレルタイプのパーラーで、朝、昼、夜の1日3回の搾乳をしています。



④乾乳舎

妊娠中で搾乳を休んでいる乳牛が入る牛舎

⑤育成舎

生後6カ月以上で、初めての出産を迎える前の雌牛が入る牛舎



⑥バンカーサイロ

刈り取った牧草を積みます。牧草をビニールシートで覆い、発酵させて飼料をつくれます。



⑦バイオガスプラント

牛の糞尿を発酵させ、取り出したバイオガスで発電します。環境負荷軽減にもつながります。

伊藤デリーの歴史

1919年 新潟から入植

1972年 伊藤順一（会長）就農。乳牛40頭

1999年 伊藤和宏就農。乳牛100頭

2007年 近隣の農家の離農により、土地が手に入ることになる。

2008年 法人化し5億円を投じて規模拡大。正社員の雇用を開始。

2012年 経営不振で搾乳回数を1日2回から3回に変更。

2015年 人手不足でフィリピンの技能実習生を受け入れ【変革①】





人手不足から外国人技能実習生

2018年（平成30年） 2棟目の社宅建設。外国人実習生4名に。
経産牛：540頭



日本人と実習生に差は無い





少しでも働きや
すい環境を追求



2019年（平成31年）バイオガスプラント稼働開始（150kwh）
【変革②】

2020年4月（令和2年）新型コロナウイルスによる緊急事態宣言

2021年（令和3年）哺育舎2棟、育成舎1棟 稼働

2021年（令和3年）伊藤和宏が代表取締役役に就任

2021年（令和3年）経営コンサルタント契約

2024年（令和6年）バイオガスプラント増設（300kwh）







牛の糞尿から電気を作る



糞尿を発酵



メタンガスを取り出す



メタンガスを燃料としてエンジンを稼働



電気を電力会社に販売（F I Tにより
39円/KWh）

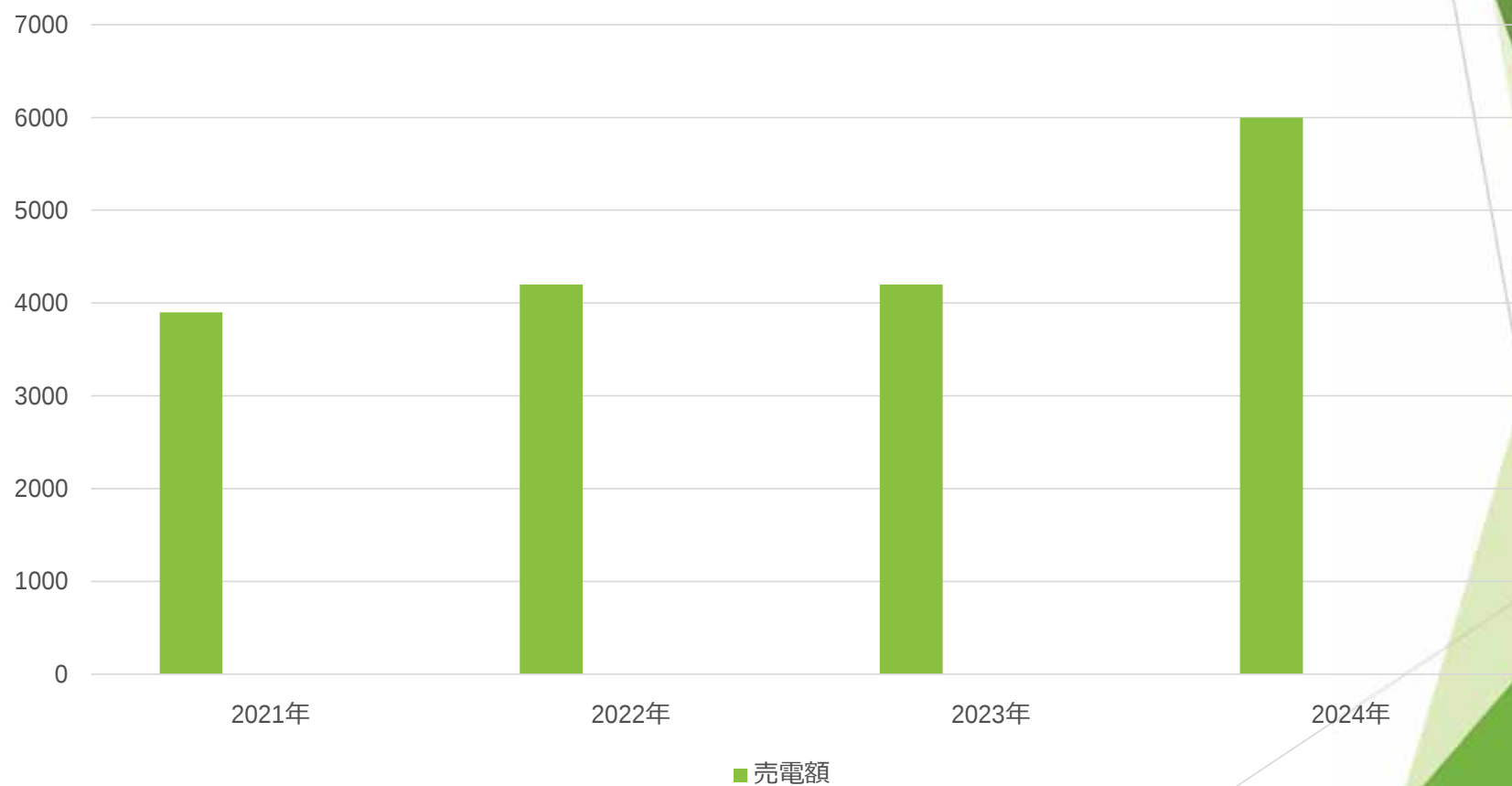


収益(約4000万/年)



収益額

発電による売り上げ



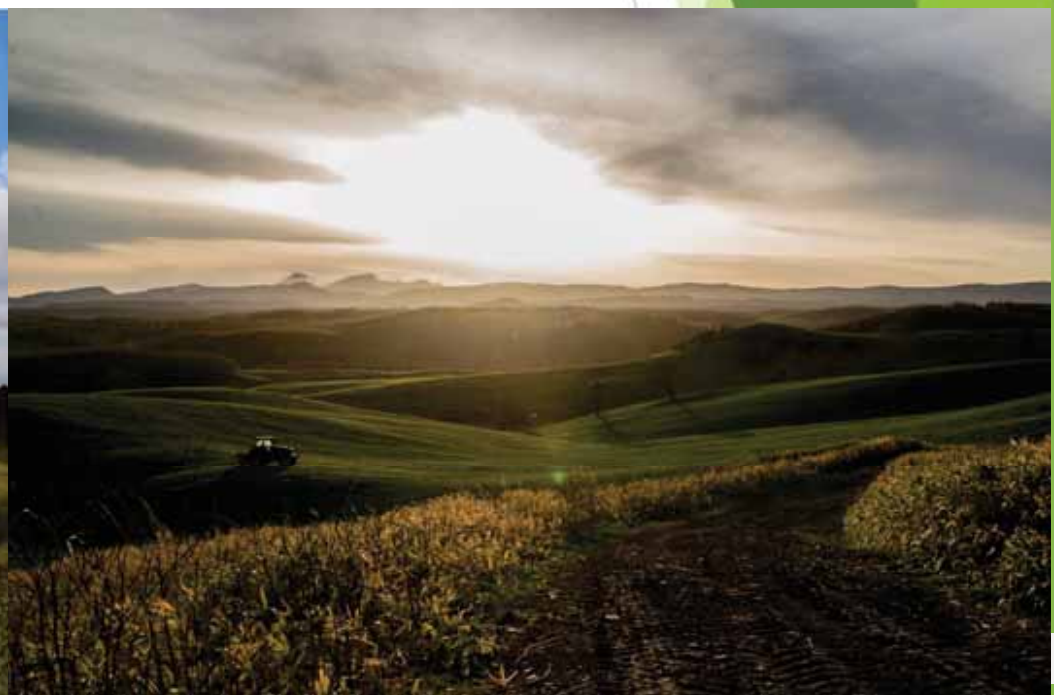


発電後の糞尿を搾って再利用
固液分離機を使用し、固形分を敷料に



消化液（液肥）を圃場に還元

肥料費削減



糞尿のにおいが非常に弱くなる

年中散布するので、理解を得やすい

糞尿は厄介者ではなく貴重な資源



2021年（令和3年）

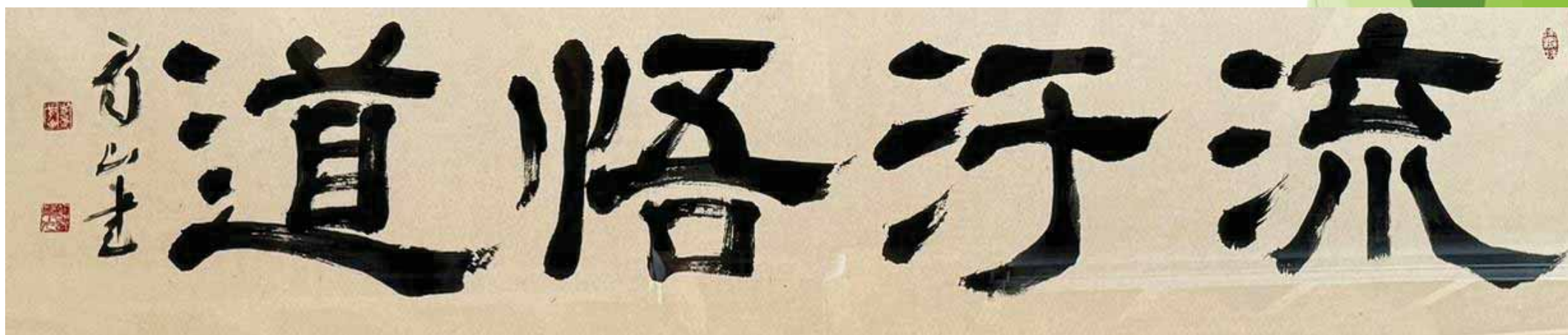
経営コンサルタント契約

【変革③】

2021年（令和3年）

伊藤和宏が代表取締役役に就任【変革③】

父が70歳になった時に専務から社長に昇格
会長の経営理念



伊藤デイルーの名前への思い

デイルー(DAILY)とデーリィ(DAIRY)へのこだわり

